

📎 NPO団体紹介 part1

●コミュニティ放送局 FMわいわい ●ワールドキッズコミュニティ ●特別非営利活動法人 多言語センターFACIL ●AMARC日本協議会

設立日

1999年 6月 多言語センターFACIL 団体設立
2006年 8月 法人格取得
2007年 4月 多文化 Pro³ グループ結成

事業費

8000万円 (2009年度)

構成メンバー

- 常勤スタッフ 7人 ●非常勤スタッフ 6人
- 緊急雇用スタッフ 7人
- ボランティア 1000~2000人 ※登録者数

📍 information

〒653-0052
神戸市長田区海運町3-3-8
たかとりコミュニティセンター内
TEL: 078-736-3040 (FACIL)
FAX: 078-737-3187 (共通)
EMAIL: facil@tcc117.org (FACIL)
URL: <http://www.tcc117.org/pro-cube/>

団体概要

「翻訳・通訳から多言語 WEB・DTP、外国語音声制作、FM 放送まで ... 多文化でまちを楽しく!」のミッションをかかげて活動してきた4団体(コミュニティ放送局FMわいわい、多言語センターFACIL、ワールドキッズコミュニティなど)が、2007年4月、ひとつのグループになりました。グループ名は「多文化 Pro³ (プロキューブ)」。「Pro³」とは、プロGRESS (革新)・プロデュース (創造)・プロフェッショナル (専門に徹した) の相乗作用を意味しています。



多文化 Pro³グループの建物入口



水にぬれても大丈夫な防災カード



取材後はインドへ出張される予定



相談にのる吉富さん

多文化Pro³グループ



多文化Pro³グループ 代表

Yoshitomi Shizuyo

吉富 志津代氏

NPO法人 多言語センターFACIL 理事長

ワールドキッズコミュニティ 代表

FMわいわい 多言語番組プロデューサー

NPO法人 たかとりコミュニティセンター 常務理事

「たった一人のためにしたことでも、それがみんなのためになる。」

一 設立経緯を教えてください。

阪神淡路大震災がきっかけです。国籍・民族・言語の違いも関係なく、みんなが被災者になった。でも、困っている内容はそれぞれ違う。

私は、震災前に領事館の職員だったこともあり、以前から相談を受けたり情報提供を行ったりしていました。震災時でもその延長線上で支援をし、それが震災時だけではなく日常的にも必要なことであると思いました。

まず、多言語のコミュニティラジオ局FMわいわいが開局し、その後、多言語センターFACILを立ちあげました。それと同時に、外国出身の子どもの活動を行うワールドキッズコミュニティも立ち上げました。

一 吉富さんは震災の時にこの辺り（神戸市長田区）に住まわれていたのですか？

私は震災当時、北区に住んでいましたが、93年にカトリックたかとり教会と知り合いになりました。子どもたちがサーカスをして暮らしている「ペンポスタ子ども共和国」という共同体がスペインにあります。その神戸公演の際にこの地域と教会が受け入れをし、私はその時に通訳ボランティアをしたんです。

翌年、神戸の領事館が大阪に移転したのをきっかけに仕事を辞めました。それから年が明けて、地震があった。だから、たまたま仕事がなく手伝いに行けました。ここは「たかとり救援基地」として、教会が地域に提供してくれた場所です。すぐに救援物資や医療チームが来て、ボランティア基地になった。サーカスのときにかかわっていたボランティアもたくさん来ていました。その中からさまざまなグループができ、団体となり、現在はそのうちの4団体が多文化Pro³グループとなりました。

一 なぜ、多言語センターFACILを法人にしたのですか？

ずっと任意団体で仕事をしてきたので、法人ではなくてもよかった。でも事業費が増えていき、代表者個人の責任だけでは荷が重くなってきました。法人にすれば役員全員の運営責任になるし、法人対象の助成金にも申請できるので取得しました。法人格を取ったのも遅く、2006年です。

一 具体的な活動内容を教えてください。

日常的な多言語情報の分野の翻訳／通訳に対価をつけ、多言語環境を促進することです。翻訳は日本語から外国語にすることが多く、ネイティブの人が活躍できます。それをIT部門がデザインしてWEBや印刷物にます

ることができます。そのひとつが、水にぬれても大丈夫な防災カード。日本語も含めて7言語あります。企画、翻訳、デザイン、印刷のすべてを手がけました。

他には、食のビジネスもしています。例えば、「あなたのおうちに世界のシェフが行きますよ」っていう、デリバリー。このような多言語・多文化事業は、全国から仕事をいただきます。

一 この地域は外国人の方が多いのですか？

少なくはないです。日本での外国人登録者数は、全国で約221万人を超え、兵庫県だと10万人。でも日本国籍を取得した人たちは数に含まれない。また、父・母のどちらかが日本人の場合は国籍が日本であってもふたつの文化の影響を受けているから、誰を「外国人」と考えるのは難しいです。外国人登録者数の多さでいえば、兵庫県は全国で10位以内に入っており、神戸市の中央区と長田区は人口の10%と多いです。でも多いからしなくてはいけないとか、少ないからしなくていいというわけではない。少なくとも困っている人たちはいるから。

一 そうですね。

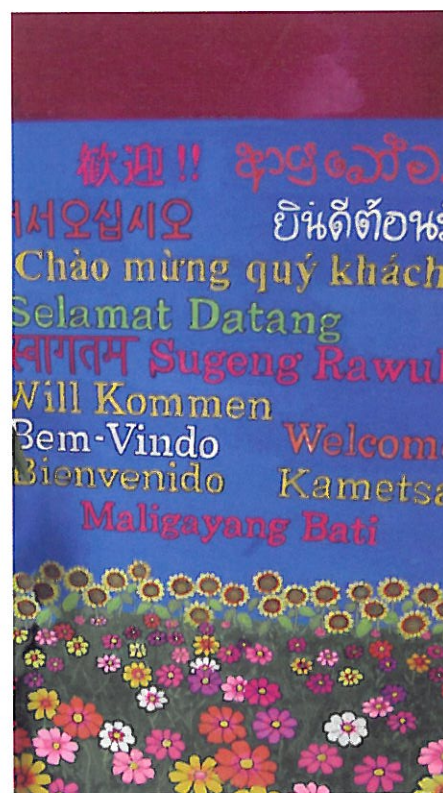
たった一人のためにしたことでも、それがみんなのためになることがある。ユニバーサルデザインというのがその考え方です。私たちは情報を翻訳／通訳をするときに、必ずやさしくわかりやすい日本語にして、日本語を学んでいる人にも理解できるようにしています。共通語としてのやさしい日本語です。例えば、介護保険をやさしい日本語で説明したものをおばあちゃんが見て「これ、わかりやすい」って言うわけ。

私たちがそういうものだと思って気づかないことが、ちょっと違う視点にすると「あ、もっとよくなった」ってなる。そういう意味で、マイノリティで暮らしている人の視点を大事にしています。

一 活動の問題点や課題はありますか？

私たちの目的は、もっと成熟した民主的な社会にすることなので、しないといけないことはたくさんある。どんな人にとっても100%の社会なんて絶対にあり得ない。けれど、みんなが少しずつ知恵を出し合い、改善していくプロセスが大事。みんなに、そのプロセスにかかわってほしい、気付いてほしい。多様性が豊かであることや、少数者の意見も大事だということを、もっと世の中に広げたい。民主主義の中に多文化の視点が入ったらもっと豊かになると思うから。

多文化Pro³グループ



スタッフインタビュー

多文化Pro³グループ 事務局スタッフ・映像クリエイター



Murakami Keitaro

村上 桂太郎氏

「NPOで仕事を始めて、人と接するのが楽しくなった。」

— NPOに入ったきっかけを教えてください。

求人情報誌で「社会変革的なWEBテレビ局の準備スタッフ」という求人をたまたま見つけました。8年前は、インターネットで映像が見られるなんてほとんどみんな知らなかったし、NPO法人格もできたばかりで、そこが働き口になるイメージもなかった。だからピンとこなかったけれど、仕事と社会変革が一体となるのが新鮮で「1回やってみたいな」と思いました。

2001年の9月から緊急雇用として6カ月間雇われ、その延長で今に至ります。

— 最初は、どのような活動をされていましたか？

市民活動や在日外国人のコミュニティ活動をパソコンを使ってサポートしていく、ツール・ド・コミュニケーションという団体に入りました。

パソコンのリサイクルをして、市民活動団体や外国人家庭に設置していました。パソコンの使い方やHPの作り方などのIT講習会も行いました。ベトナム人・ブラジル人・スペイン語圏の人々と一緒にテキストを作って講習するなど、在日外国人の人々のパソコン利用を促進していきました。

僕の初仕事は、9月11直後だったので米英軍による空爆について、「あなたは、どう思いますか」ってNPOで働くスタッフや地域に住む人々にインタビューして、映像でアップしました。

— 現在は、どのような活動をされているのですか？

多言語センターFACILでは翻訳のコーディネート補助を、FMわいわいではイベントで音響を担当、ワールドキッズコミュニティでは在日外国人の子どもたちの映像表現活動をプロデュースしています。Pro³全体の動きを把握して、動くポジションです。ラジオは月に1・2回、お昼の番組を担当しています。

— 村上さんの昨日の一日の行動を教えてください。

10時に出勤して定時の18時で帰りました。午前は、子どもたちの活動に寄付してくれた方々へのお礼状を書いて、午後はずっと翻訳のチェックをしていました。

— 給料はどれくらいですか？

額面上は、19万円です。社会保険は完備されています。ボーナスは、今年は2回ありました。

— 村上さんは、給料にはあまりこだわっていないのですか？

いや、給料はもちろん上げたいよ（笑）。公益的な役割を担っている自負もあるし、行政の給料基準に近付きたいというのがあります。

行政からの助成金って、人件費を含めてはいけない場合が多い。行政もNPOをパートナーとして考えているなら、社会的な成果を見合わせた上で人件費についても認めてもらわないと。もちろん税金から人件費をいただくとなると、NPOの業務遂行力や情報公開性が市民から厳しく問われることも大事です。

— ここで活動するために、語学など特別なスキルは必要ですか？

僕は日本語もいまいち（笑）。翻訳は全てネイティブ・チェックされていますが、僕はさらに抜けがないか、数字が間違っていないかなどを見ます。今は、コンピュータに便利なものがあるから、言語がわからなくてもある程度までは調べられる。だけど翻訳コーディネーターは、自らも翻訳者として外国言語語がしっかりできる人が向いていることはいまでもありません。

ここは人と人のつながりで成り立つところなので、自分が評価されることだけを目的としてしまう人がやっていくのは難しいかも知れません。

— ご自身で成長を実感した部分はありますか？

人と接するのが楽しくなって、すごく面白いと感じるようになりました。

— 会社とNPOとの大きな違いは何だと思いますか？

NPOは収益とミッション達成の両輪じゃないとバランスがおかしくなる。ミッションを達成させる基盤を作るために収益を上げる。企業は、収益を上げるのが第一目的。その部分かな。

— これからの日本にNPOは必要だと思われませんか？

日本の経済成長はこれ以上望めないと思うから、NPOを仕事場として増やしていくことが必要だと思う。コミュニティビジネスやソーシャルビジネスは、社会的な問題をビジネス手法で解決していくという、今までにないビジネス。だから、先行モデルもほとんどなく、それだけビジネスとして成り立たせるのは難しい。けどこれからの社会にますます必要となってくる。

社会構築という面から、NPOを支える制度や仕組みを考えていかないとだめなんじゃないかな。